

途上国に対するチーム医療教育支援

時田 佳治

(群馬大院・保・生体情報検査科学)

群馬大学医学部では1999年から学部学生に対してチームワーク実習を実施しているが、この実習が学生の多職種連携教育(IPE: Interprofessional Education)や協同実践(CP: Collaborative Practice)に対する態度にポジティブな変化を及ぼすことが私たちの定量的な解析により実証されている。そこで、群馬大学医学部では、HRH Action Framework for the Western Pacific Region (2011-2015)に基づき、西太平洋地域の国を中心としてIPEに興味のある教員や臨床家等に対して自国(自校)でのIPEプログラムの開設または改善を目指してトレーニングコースを企画した。

本トレーニングコースでは、自国(自校)でのIPEプログラムの開設または改善を目的として本学のチームワーク実習の概要を提示し、本学で培った技術的な情報を伝えることを目的としている。これを達成するために、コースにはIPEやCPの現状と課題や日本の保健人材教育制度についての講義を行い、本学のチームワーク実習の基本的な考え方やカリキュラムを紹介し、実際にその一部を体験するように計画した。その後、参加者の所属機関でIPEプログラムをカリキュラムに組み込むための可能性について考察し、さらにIPEプログラムの教育効果を検証するための共同研究について模索していくための時間を設けている。また、途上国からの参加者の渡航や滞在を支援するためTraveling Awardを設けた。2013年は8名の参加申し込みがあり、そのうち4名がTraveling Awardによる渡航・滞在の援助を得た。

開設初年度である2013年は8月20日から26日まで実施し、ATHCTSによる定量的評価を実施したが、今回は、2013年度のトレーニングコースの実施概要と参加者による感想および効果の定量的な評価結果について報告し、本トレーニングコースの効果の検証と今後の課題について述べたい。

アジアにおけるチーム医療教育の普及活動

金泉志保美 (群馬大院・保・看護学)

近年、国際社会における保健人材不足は深刻であり、世界保健機構(WHO)では早急に保健人材の数を増やすとともに良質な人材を育成することを喫緊の課題としている。2012年に発行されたWHO保健人材養成ガイドラインには、「チーム医療教育」が一つの柱として組み込まれている。WHO西太平洋地域事務局(WPRO)では、アジア地域における今後5年間の保健人材養成の枠組みの中で、養成される保健人材に必要とされる資質として、チーム医療実践能力を求めているが、アジア地域におけ

る「チーム医療教育」の関心は低く、チーム医療の実践も不十分である。

そこで、群馬大学を代表校とする日本インタープロフェッショナル教育機関ネットワーク(JIPWEN)では、WPROの展開する保健人材育成イニシアチブと連携し、アジアにおけるチーム医療教育の普及活動に取り組んでいる。その中の一つ、アジア地域でのワークショップ開催の取り組みの第一歩として、韓国・高麗大学(Korea University)にて開催されたチーム医療教育ワークショップにおいて、群馬大学でのチーム医療教育の取り組みを紹介する機会を得た。フィリピン、ミャンマー、スリランカ、インドネシア各国から研修生として派遣されている医師・看護師が参加しており、「医師が上位にあるsocial hierarchyをどう打開したらよいか」「過密な医学教育のカリキュラムの中にどのようにして付加的なプログラムを組むのか」などの問いかけも出された。それぞれの国においてチーム医療教育を取り入れる上での障壁となっていることや、保健医療システムの事情等を垣間見ることができ、チーム医療教育普及の難しさも感じた。今後は、多職種連携やチーム医療教育の理念をふまえつつ、相手国がそれぞれの国の実情に合ったチーム医療教育の開発に活用できるようなワークショップを展開していきたいと考える。

Literature Reviewによるチーム医療教育に関するエビデンス構築

松井 弘樹, 安部由美子

(群馬大院・保・生体情報検査科学)

現代の医療では、診断技術や治療の多様化・複雑化に伴って専門分化が進み、一人ひとりの患者に対し、多くの関係する専門職種がチームとしてケアにあたる、チーム医療の教育と実践に対する関心が高まっている。最近、世界保健機関(WHO)から出された報告書(2010年)においても、チーム医療教育(Interprofessional Education; IPE)およびチーム医療は個人および地域の医療ニーズに応えるための革新的な戦略であり、互いの職種の役割や現状を理解することで、効果的な連携を可能にし、結果としてよりよい医療が提供できると述べている。さらに、現在実施されている保健医療教育を、よりコミュニティのニーズに則した、保健システム強化に資する教育に変えていくために、本年、WHOが作成した「医療専門職教育改革ガイドライン(2013年)」にも、新しい教育方法としてIPEが含まれている。

IPEが学生へもたらす教育効果としては、多職種連携に対する態度や学習効率、他職種の役割に関する理解の向上などが挙げられ、本学でもこれまで、複数の研究成果を報告してきた(Hum Resour Health. 2009; J Inter-